

8 人口増へ！米水津からの情報発信 ～米水津地域～

【現状と課題】

米水津地域では、人口の減少が深刻な問題となっています。特に、東日本大震災以降、今後想定される南海トラフ巨大地震を懸念して、若い世代は沿岸部で住むことを敬遠するようになり、地域外に転出する傾向が強まりました。この影響により教育面においては、児童数、生徒数が急激に減少し、各地域の伝統行事や自治会活動も衰退化している状況です。

産業面においても、就業者の高齢化と労働力の不足は深刻で、移住者やシニア世代を労働力として活用するとともに、移住者の住居や就業先の生活基盤などの受入れ体制を整える必要があります。

このような現状の中、生活基盤や産業面で重要となる「第2浦代トンネル」の建設が現実味を帯びてきました。このトンネルの開通による経済効果は、物流面での利便性の向上だけでなく、通勤や通学で利用する人たちの安全確保に加え防災面でも大きな安心感を与えてくれます。また、観光客や交流人口の大幅な増加が見込まれ、地域の活性化と大きな発展につなげるため、インターネットやメディア等のあらゆる広報媒体を利用して世界中に米水津地域の詳細な情報を発信することが必要です。

【これからの基本方針】

- ア 地震、津波を恐れることなく、安心して暮らせる定住の場「高台移転」について、調査、研究するとともに、空き家を利用し移住・定住を希望する人の住居を確保します。公共交通におけるバス廃止路線については、他の交通手段の導入を検討します。
- イ 移住者や労働意欲旺盛なシニア世代も労働力として活用し、労働力の不足を解消します。移住者や外国人技能実習生が、地域の祭りや敬老会等に参加することで、国際色あふれる地域コミュニティを形成します。
- ウ 第2浦代トンネルの早期完成と県道色宮港木立線の整備及び佐伯堅田ICにつながる新規バイパス道路の整備について地域住民一体となって要望活動を行います。地域の利便性だけにとどめず、基幹産業の発展、また、観光面まで経済効果を波及させます。
- エ 協議会等を設立し米水津のホームページを開設して、動画などで地域のニュース、イベント、観光スポット、特産品、空き家、求人情報などの詳細情報を掲載し、移住希望者や観光客に情報提供するほか、特産品のインターネット販売も視野に入れた取組を行います。

【主な取組】

- ア 安心して暮らせる定住の場を確保
 - (ア) 地震、津波を恐れることなく安心して定住できる高台移転・分譲について調査・研究
 - (イ) 旧色宮小学校跡地や空き家を有効活用した移住定住者の居住先の確保
 - (ウ) バス路線廃止地域の公共交通を確保
 - (エ) 子育て世代、高齢者にやさしい環境を確保
- イ 労働力の確保
 - (ア) 移住者やシニア世代を労働力として活用
 - (イ) 移住者や外国人技能実習生を含む地域コミュニティの形成
 - (ウ) 移住者や外国人技能実習生との交流会の開催
- ウ 第2浦代トンネルの整備要望活動の推進
 - (ア) 早期完成とアクセス道路交通網の整備要望活動の推進

- (イ) 隣接する他地域との連携した重要活動の推進
- (ウ) 地域の利便性、経済、観光等多方面にわたる波及効果の啓発

エ 米水津からの情報発信

- (ア) インターネットを利用した情報発信戦略の推進
- (イ) 佐伯市地域おこし協力隊員を配置
- (ウ) 移住、定住希望者に生活環境、求人情報、空き家等の不動産情報を発信
- (エ) 地域の特産品を情報発信し販売網を拡大
- (オ) メディア等を利用した地域の観光、文化、イベントの情報発信

重点プロジェクト

米水津人口増加プロジェクト

米水津地域の最重要課題である人口減少対策として、移住希望者を勧誘する詳細な情報を発信し移住世帯数の増加を図る。

また、本地域で最も危惧される津波災害を恐れることなく安心して暮らせる高台移転と旧色宮小学校運動場の分譲化、旧校舎を保育所、商品開発研究施設、交流施設、技能実習生宿舎などに有効活用することについて調査、研究、検討する。

【目標指標】

目標内容	基準値 平成28年度（2016年度）	目標値 平成34年度（2022年度）
米水津管内移住世帯数 （市外からの移住）	5世帯／年	30世帯（累計）



空の公園 芝桜